



学校教育目標

- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

本気笑顔を目指しての2学期とは！

今日から、いよいよ2学期が始まります。皆さんは、今日どのような気持ちで登校しましたか。

私が中学生の頃は、もう少し夏休みが続かないかと、「あと数日でいいから、ゆっくり過ごしたいな」という気持ちを引きずっていた記憶があります。皆さんは、いかがでしょうか？

社会人になってからの夏休みは、40数回になりますが、特に校長になってからの最近の夏休みは、思った以上に忙しく過ごしています。この忙しさは、授業がある日常とは違い、多くの人の体験と触れ合うことのできる忙しさです。今年も



各運動部の大会では、多くの種目で勝ち進んだ生徒たちを応援しに、試合会場に出かけました。生徒の皆さんが躍動し、歓喜にわいたり、悔しがったりと多くの体験を通じて、成長の糧となる貴重な場面を拝見させてもらいました。文化系でも同様に吹奏楽・合唱コンクール・美術部の作品づくり・スピーチコンテストの練習など多くの分野で本当によく努力を重ね、頑張っていたと思います。入賞や上位の大会へ進む結果や成果も大切なのですが、私は、やはり今の皆さんの時期には、努力を重ねることで、それにより自分に多くのことがのしかかり、それによって見える世界や感じ方が変わること、これこそが貴重な体験だと考えます。これは、勉強に明け暮れた3年生にも言えることだと思います。自分の努力の跡を大切にしてください。

私の見ていないところでも夏休みの経験の中に、少しでも自分のやりたかったことができているといいなと思います。

さて、ご存じの通り2学期は、学校行事や学業的にも大変充実した日々が予定されています。1年生は、当然初めてですが、先輩との接点も多くあります。目指すべきカッコいい先輩が見つかるといいですね。

カッコいい先輩を見間違えないようによく観察してください。2年生の皆さんは、1年生の時は、はじめての経験だったのでどちらかと言うと受け身でしたが、これまでの経験をいかし、どのような努力や取り組みを行うかで皆さんが獲得できることが違うと思います。これが、「本気笑顔の一步」に繋がるといいと思います。最後に、3年生は、学校や学年・クラスが、どのようにしたら「本気笑顔を経験できるのか」を考えながら全体を率いてほしいのです。自ら、課題を発見し、優しく強い心を鍛えながら「本気笑顔を経験」する取り組みを実践し、中学校、最後になる一つ一つの出来事をより深く体験してほしいと思います。

では、中学校期でより深く学ぶことと大切なことは、何なのでしょう。私は、よくこの命題に悩む考えるのですが、その内容の一つを紹介します。

必要とされる力は、時代とともに変わっていくものもあれば、時代や流行が変わっても変わらないものがあると思います。その中で身に着ける大切なものに、少し変わって聞こえるかもしれませんが友達や先生、保護者との付き合いの方があってはならないのでしょうか。一言でいうと人間関係でしょうか。

例えば以下のような内容です。

(今よく言われている非認知能力です。)

- 1、あこがれること
- 2、人を愛すること
- 3、人から愛されること
- 4、誰かを好きになること
- 5、誰かとケンカすること
- 6、人の気持ちがわかること
- 7、人の痛みがわかること



このようなことは、教科書では、取り扱わない事ですが社会では、絶対に必要となる事です。これから迎える2学期には、様々な取り組みを通じて、生徒一人一人の生徒の皆さんが自分の可能性を信じ探し続けること。自分以外の人を価値ある存在として知り認め、色々な人と一緒に働いたり、同じ目標を目指したりしながら変化する課題を乗り越え、共に喜びや苦しみを分かち合い、豊かな人間性を身に着けるなど獲得してください。2学期も着実に進めていきましょう。

2学期 始業式 式辞より

☆ 8月30日避難訓練・地区別下校を実施しました。

8月30日の午前11時02分から避難訓練がスタートしました。夏休み中には、日本中で台風や線状降水帯の発生やゲリラ豪雨の様子が、幾度となく報道され災害や交通網に支障が出たというニュースが頻りに流れていました。私たちは、埼玉県レベルは、もとより日本的な規模、更には、山火事など多くの天災など世界的な天災を知らされています。しかし、「自分は、大丈夫」とどこか当事者でない意識が働いてしまうのでしょうか。いざというとき動本当に動けるのが心配になってしまいます。生徒を安全に避難させ、更には、地域の担い手として育てる為により良い方法がないかと日々考えています。そこで、できることから始めようということで、小学校に兄妹がいる本校の生徒が親に代わって引き取りなどできるように計画を整備し避難の際に使用できるよう再整備を進めました。更にここで避難する際に生徒の頭部を守り、両手を空けて避難ができるようと考え、小中連携として小学校で使用していた「防災頭巾」を使用することとしました。人の命を守ることに有効な方法を一つ一つ進めてまいりますのでご理解とご協力をお願いいたします。尚、詳細な通知については、後日配布させていただきます。



校長見聞録

始業式では、夏休みの生徒の活躍に触れ紹介させていただいたが、夏休み先生たちは、何をしているのかも今回紹介し学校の準備もご理解いただくと幸いです。

まずは、(1) 長野県にある伊那小学校の視察である。全員いくことは、現実的にできなかったが研修部の先生方を中心に訪問した。「はじめに子どもありき」の理念のもと数十年研修を重ねている学校で、「先生のやってみる？」という軽い滑り出しで始業式2日目の児童が自ら動く姿に唖然とした。私は、小学校3年生の授業を一日追いつけたが教育について深く考えさせられた。

(2) 先生方は、危機管理として、警察官OBによる指導の下、不審者対応についても理論と実践を行った。ナイフを持った人やサツマタの使用など真剣に学ぶことができた。一番は、不審者が校内に入れないようにすることだが、完全なものはないので更に気を配っていかなくてはならない。

(3) 授業について「はじめに子どもありき」の著者東京学芸大学名誉教授の平野先生の講義第3回目を行った。能動的な学習者（生徒は、皆よくなりたいたいと考えているという考え方）としての生徒の捉え方、生徒観・教師観・教材観について、講義と質問形式で進めた。先生には、長野県の視察の際にもご指導をいただいている。9月4日目にも一日ご指導いただく。

(4) 美原中学校校区の小中学校合同で接遇についての坪田先生に研修をしていただいた。人は、「何を言ったかだけでなく、どのように伝わるのか、伝わったのか」というプロの観点からわかりやすくご講義いただき大変勉強且つ参考になった。2学期以降生かしていきたい。

* 先生方の夏季休業中研修の一場面 *

(1) 伊那小学校の視察

(2) 不審者対応研修

(3) はじめに子どもありき研修

